No.	頁等	箇所	意見の概要	市の考え方
1	P16 P18	（２）市民の農業への理解の醸成と地産地消の推進	P16　消費　地産地消の推進 P18　鎌倉やさいを全ての市立小学校・中学校の学校給食の食材としてほしい。 安定的な需要がみこまれる。親の視点からも安心・安全である。 （必ずしもオーガニックは求めない。適切な農薬は仕方ないと考える。） ※横浜国立大学附属鎌倉小学校の学校給食を参考にしてほしい。 非常においしい。	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。 地産地消の推進に向けては、今後も庁内関係課や農業関係団体と引き続き協議を進めていきます。
2	P19	（３）環境と共存する農業の推進	農薬について、モンサート社のグリホサート（農薬）、ラウンドアップ（除草剤）など、 発がん性物質を含むものへの規制を考えてほしい。 石油やヒ素が含まれていると聞きます。	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。 農薬の使用については、今後も国県と連携して、引き続き普及啓発に努めていきます。
3	P16 P18	６　今後取り組むべき施策の内容	①点と点を結ぶアクション 農業を応援してくださる組織（以下、応援組織。主にJA、行政、農業技C）の実態はそれぞれが独立して農家をサポートする体制となってしまっているため、「情報不足による機会損失」や「形だけの支援」になりがちです。 原因は農家側からの支援ニーズがない事が挙げられます。 市内農家は個別独立性が強く、農家同士の連携は「鎌倉ブランド」という知名度とは裏腹に、少々遠いものだと感じております。具体的には、農家同士の情報交換の機会（雰囲気）も少なく、「単騎」で生き残るために戦っているイメージです。 こうなっては農家が支援ニーズを応援組織に投げる機会は減り、応援組織が考える農業支援と現場の実態とが噛み合わなくなってしまう構図ができてしまいます。 組織としては、ニーズがない部門に人員を割くことを避けるようになり、後任の方々は人手不足と労務過多に陥り、業務処理だけで精一杯という負の連鎖が起きてしまいます。 つまりは農家側がもっと積極的に応援組織に支援ニーズを投げれば良いのです。 私は現在、応援組織を巡回し、点と点を結ぶ糸口を探して活動しております。 組織間の連携が機能すれば、市内農家はもっとレベルの高い農業経営が可能になると考えます。	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。 市としても農家と密接なつながりがある農業関係団体と連携を密にし、農家のニーズを正確に捉えられるよう、引き続き農業振興に努めていきます。
4			②必要な支援 「農業界にどんな支援が必要なのか」言語化が苦手な農家からは意見が出づらい部分です。 しかし、昨今の感染症、物価高騰など経済状況を見れば（外的要素）、これまで通りの経営では成り立たないのは明らかです。 つまり、今後農家が生き残るためには新しいスキルを身に付けていかなければなりません。 抽象的には「経営力」。具体的には「マーケティング」と「ファイナンス」です。 マーケットと自身の強み（現状把握）を分析し、生産性高く主体的な行動計画。 それを実装するための仕組み作りや資金的なシュミレーション（仮説立証の反復と財務分析）。 経営力を学び、磨いていくためには、伴走者として応援組織の中にこのスキルを持つ人材が必要です。 しかし、そもそも応援組織がこのニーズに重要性を見出せなければ人員配置もされないでしょう。 引き続き巡回を続け意思疎通を図りたいと思います。	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。 市としても、農家を支援するための国県の取組や予算措置等の情報収集に努め、国や県の職員との情報交換が必要であると認識しています。今後とも農家を適切に支援できるよう、農業振興に努めていきます。
5			③建前と本音 「環境負荷の低い農業、安心安全な有機農業、葉山牛糞のブランド堆肥」これらは決して交わりません。 ここでは記述し切れないほど、それぞれ表向きなPRと実態とがかけ離れ過ぎています。 このイメージ先行と実態の乖離の代償は、今の若手世代が払うことになります。 「良い」とされているが「具体的な説明はできない」。そんな人が多いのではないでしょうか。 「肥料や農薬を使わない、独自のブランド堆肥だ」これは説明になっておりません。 生産物の質や熟度を知らないのに、あたかも立派なもののようにPRし、 受け取り手も知らないがために「すごいんだ」と勘違いしてしまう。 本当の答えは現場にあります。 なぜ良いとされる有機農業で生計が成り立つ農家が増えないのか、 新規就農者が補助金が切れた所で離農するのか、 農家にもこれからもっと様々なスキルが要求される時代になります。世の中甘くありませんからね。次の世代がお客様に喜ばれる野菜作りができるように、今後も皆様の力をお借りしながら頑張りたいと思います。 最後までお読みいただきありがとうございました。	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。 ブランド堆肥事業については、引き続き市及び農業関係団体が農家の意見を聞きながら、協働で実施していきます。
6	P15		「本市農業の安定的な継続」のためには、生産（農産物の品質や収量の向上）と消費（農業所得の増加）の両輪が動くことが必要であると考えます。 両方を上手くかみ合わせる施策を行っていただきたい。	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。 市としても、農家を支援するための国県の取組や予算措置等の情報収集に努め、生産を支援するとともに、朝市や秋の収穫まつりなどの機会を捉え、鎌倉ブランドの啓発を行い、消費を促していけるよう、今後とも農業振興に努めていきます。
7	P20		特に施策方向３ウの有機農業については、生産効率が上がりづらい上にその分を価格に反映させることが難しいという現状があります。今後有機農業を推進していかれるのであれば生産に関する施策だけでなく、適正価格で取り引きされる様に消費の面での施策にも力を入れていただきたい。	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。 有機農業の推進については、今後も農業関係団体と引き続き協議を進めていきます。
8	P16 P17		農業振興地域の整備計画と合わせて、農業振興地域外でも、必要な箇所には、整備計画をご検討いただき、生産緑地地区の保全や遊休農地の解消と活用を推進していただきたい。	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。 農業振興地域整備計画については、必要に応じて見直しを行うとともに、引き続き、農業関係団体と連携し、生産緑地地区等の課題に対応していきます。
9	P18		施策方向１ウについて、安定して農業経営を継続していける様に、就農後のサポート体制の拡充もご検討いただきたい。	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。 市としても、新規就農者を支援するための鎌倉市新規就農者育成総合対策補助金制度の運用のほか、農業関係団体と連携し、様々な手法で支援していきます。
10	P10 P18		資源循環である鎌倉ブランド堆肥事業は、鎌倉野菜の付加価値を高めるだけでなく、SDGsの目的とも合致した取り組みと言えます。又、有機農業の土台となる土づくりにおいても重要な資材であり、土づくりのためには継続して使用していく必要があります。 今後増々必要性が高まるであろう鎌倉ブランド堆肥ですので、その品質・供給量・販売価格ともに安定した提供が継続できる様に努めていただきたい。	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。 ブランド堆肥事業については、引き続き農業関係団体及び農家の意見を聞きながら、協働で推進していきます。
11	該当なし	該当なし	今回のビジョンには項目としてあがっておりませんが、鎌倉市内においても、農作物に対する鳥獣被害が出ています。 これ以上被害が拡大しない様に対策をご検討いただくとともにその至をビジョンに盛り込んでいただきたい。	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。 鳥獣被害対策については、市として既に実施している施策もありますが、本市の農作物被害の実情を踏まえ、農業関係団体の意見を聞きながら施策を検討していきます。